

令和訳和歌集

ポストする和歌

作.. 鹿兒島玉龍中学校 三年生一同

編.. 鹿兒島玉龍中学校 国語科 松元智宏

※「ポスト」とは(SNSなどに)「投稿」すること。



「夢とわかっていたならば、覚めないでいたでしように」(光村図書「中学国語3」より)

「夢だとわかっていたら、ずっと寝てたよ」(koto「いとエモし。」より)

和歌に描かれている情景は、実は瑞々しくて情感にあふれています。でも、授業という文脈に押し込められると、正確に、鑑賞を、現代語訳にという当たり前をこなそうと思ってしまう、それでへとへとになってしまいがちです。それでは和歌そのものがもっている情景の豊かさにたどりつけない。とにかく一気に和歌の魅力に飛び込んでしまおう。十五年という歳月と共に培われた感性や語感と、世紀を超えて語り継がれた和歌を一気につなげてしまおう。その過程で、必要なことは自然と学んでいく(ハズ^u)。さて、どんな令和訳が誕生したでしょう。互いの作品を鑑賞してみましょう。

参考文献 koto著「いとエモし。 超訳 日本の美しい文学」

佐々木良著「愛するより愛されたい」

※ 画像は「思ひつつ寝ればや人の見えつらむ 夢と知りせば 覚めざらましを」をテーマにAIで作成しました。

<https://myeditonline.jp/photo-editor>



☰ 春過ぎて夏来るらし白たへの衣干したり天の香具山

春が過ぎて、夏が来たらしい。真っ白な衣が干してあるよ、天の香具山に。

夏が、来たのですね。

夏になると、田植えの神事に使った衣が一齐に干されます。香具山の緑に映えて本当に真っ白に見えるのですよ。
ほら、あそこに。

柿本人麻呂

☰ 東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ

東の方の野にあげぼのの光が見えて、振り返って見てみると、月は西に傾いている。

東のほうを見たら太陽の光が見えて振り返ってみると月があったガチでエモい #インスタ

東のほう rising sun!!

振り返ったら moon sets !!

亡くなられた草壁皇子^二後継ぎの軽皇子さん^二

日が差してるこの場所も軽皇子なら上手く行く ^{とっせ}N

お仕事だから仕方なく次期天皇についてきたけど、もう日が出てきてるじゃん。悲しみだから今まで歩いてきたほう振り返った
ら月傾いてるんだけど。もしかしてこれって今の政治？ 前の天皇まだやりたいことあったのに沈んじゃって今横にいる天皇がこ
れから太陽のように頑張るんだよね。

この前、俺の上司（持統天皇）のお坊ちゃんの軽皇子とピクニック行ってきたのよ。それで、ふと空を見たらさ、東に太陽の夜
明けの光が見えてて、そしたら西には月が沈んでどっちもエモかったわ。でもさ、この前この子のお父様の草壁皇子が亡くなっ
て萎えたんだよね。そうすると、あの沈んでいく月が草壁皇子に、昇っていく太陽が軽皇子に見えてさあ…。待てよ、これ「将来
軽皇子が太陽が昇るかのように成功する」っていうフラグ立ってね？

額田王

君待つと我が恋ひ居れば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く

あなたのおいでを待つて私が恋しく思っておりますと、我が家の戸口のすだれを動かして、秋の風が吹いております。

あの人来ないなー

あ、今あの人声がした気がしたけど…
なんだ、違うじゃん。

貴方のおいでをまつておりますと

わたくしのお部屋の戸口のカーテンを動かして、
秋の風が吹いておりますのゝ

君が来ると言っていたから、

いつ来るだろうとずっと待っている。

ドアのほうから物音がして

やっと来たと迎えに行っただけけど、

柿本人麻呂は飛鳥時代の歌人。当時は身分の低い宮廷
歌人であったと推測されるが、歌人としてはとても高
い評価がある。生没年は不詳で、彼の人生については
詳しいことはあまりわかっていない。

ただの風の音だったみたい。君はいつ来るのかな。

()

君を待って恋しく思っていると、我が家の簾を動かして、秋の風が音を立てているよ。君が来たわけでは無かったのと、秋の風の冷たさで、私の心は失望感でいっぱいになってしまったよ。

え、ちよ、ガチ聞いてほしんだけどさア~~~~、ウチって天智クンの事めっちゃ好きじゃアん。でえ、こないだなんだけとお、家で

「天智くんめっちゃカッコ良〜」とか考えながら天智クンの事家で待ってた訳ね~~~~?そしたら急に簾フアサアッ!みたいなの

~~~~ウチも「天智くん帰ってきた?」的な感じで大歓喜してたの~~~~!そしたらそれ秋の風でえ~~~~ガチ死ぬ~~~~天智くんじゃねえしクソ寒いし~~~~ガチ最悪だったんだけどお~~~~  
やばすぎい~~~~

( )

君待つと

吾が恋ひ居れば

我が屋戸の

すだれ動かし

秋の風吹く

額田王



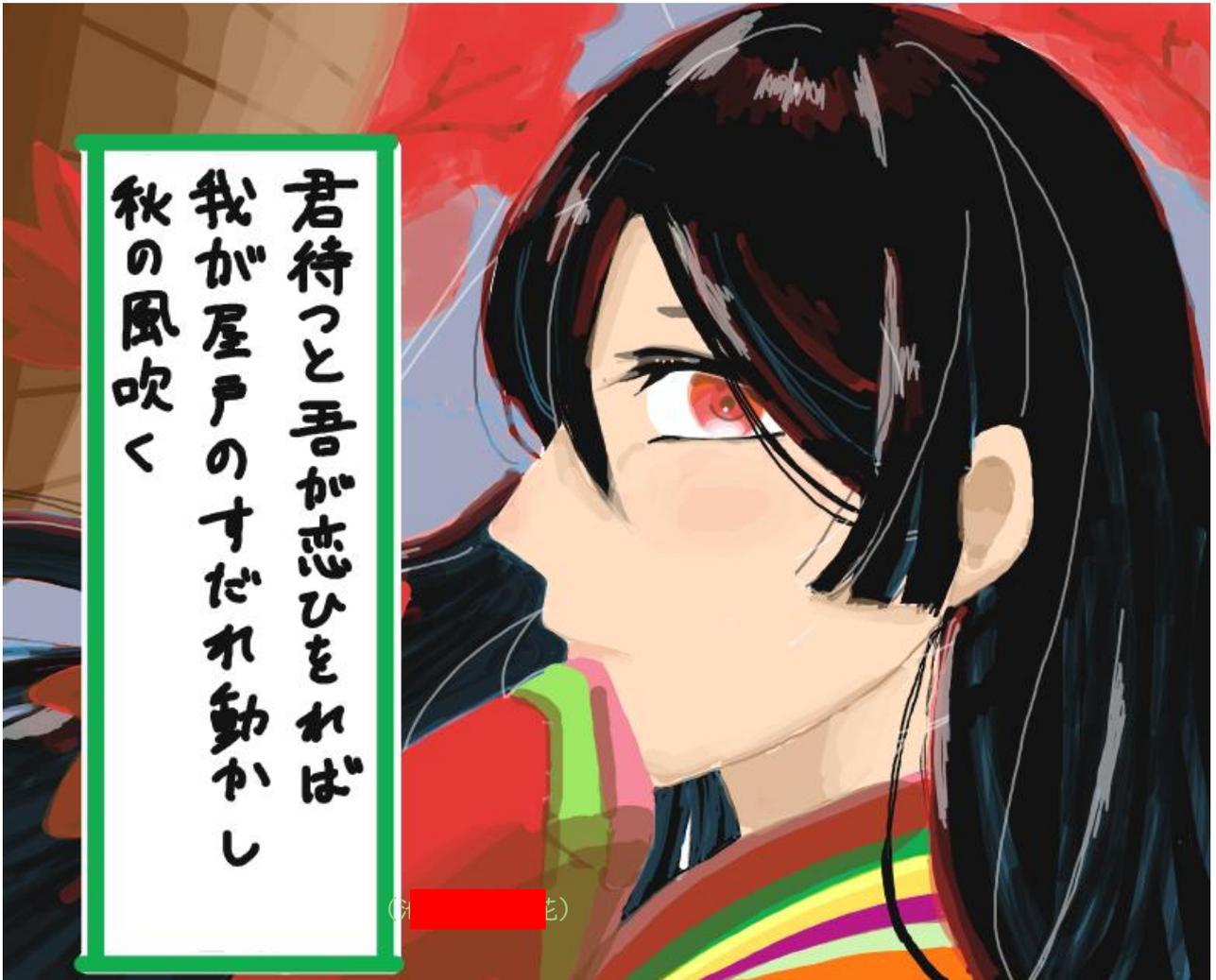
ラインの通知音がしたので彼からだと思ってうれしくな  
って開いてみると、公式ラインからの連絡で期待して切  
なくなつた。

恋しかおまんさあが来つとをそわそわ待つちよつと玄関  
んすだれがめつれつせえ、秋風とともにおまんさあが来

てくれた。

わっぜときめいた。

( )



君待つと吾が恋ひをれば  
我が屋戸のすだれ動かし  
秋の風吹く

㊦ 天地の 分かれし時ゆ 神さびて 高く貴き 駿河なる

富士の高嶺を 天の原 振り放け見れば 渡る日の 影も隠らひ

照る月の 光も見えず 白雲も い行きはばかり 時じくそ

雪は降りける 語り継ぎ 言ひ継ぎ行かむ 富士の高嶺は

天地が分かれたときから 神々しく高く貴い、駿河の国にある 富士の高嶺を 広々とした大空に 振り仰いで遠く見やると、空を渡る太陽の姿も隠れ、照る月の光も見えず、白雲もはばまれて行き滞り、時季を定めず雪は降っている。語り継ぎ、言い継いでいこう、この富士の高嶺は。

天と地が分かれたときからある、神様のような高く尊い駿河の富士山。振り仰いで遠くを見ると、大空を昇る太陽さえ隠し、満月の光も見えなくなる。高い白雲さえも引っ掛かり、年中雪が降っている。この富士山の雄大な眺めをいつまでも語り継ぎ、言い継いでいこう。

反歌

㊦ 田子の浦ゆうち出でて見れば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける

田子の浦を通って出て見ると、おお、なんと真っ白に富士の高嶺に雪が降っているよ。

「目的地まであと270mです。」スマホの機械的な音声に意外と近いなと思っているとビルが途切れて富士山が見えた。

頭頂部に真っ白に雪が積もっている。その白さと余りの存在感に、そうか、もう冬か、それにしてもやっぱり富士山は富士山だよな、何てとりとめのないことを考えてしまう。あと270m先で人生が決まる。さて、と止めた足を進めるとスニーカーが歩道の縁を乗り越えてガタンと揺れた。

㊦ 憶良らは今は罷らむ子泣くらむそれその母も我を待つらむそ

私、憶良めは、もう退出いたしましょう。子供が泣いておりましょう。それ、その母親も私を待っていることでしょう。

とても楽しい宴会ですがそろそろ私（山上憶良）はおいとましますね。家では、我が子が泣いて待っているでしょうし、妻も私を待っていることでしょう。…ただのジョークですよ。私は老人で、一人暮らしです。若い妻と幼い子供がいるわけではないですよ。

憶良ら

↓「ら」は謙譲を表す接尾語

罷らむ

↓意味は「おいとまする」

（「罷る」の未然形+む）

子泣くらむ・待つらむ

↓推量の助動詞「らむ」

この句の前置きには、山上憶良臣の宴を罷るの歌一首とあり、山上憶良が宴会を退出するときに詠んだ句だと分かる

山上憶良



憶良らは今は罷らむ  
子泣くらむそれその母も  
我を待つらむそ

山上憶良



多摩川にさらす手作りさらさらは何そこの見のここだ愛しき

多摩川にさらす手織りの布のように、さらにさらに、なんでこの娘がこんなにもいとしいのか。

多摩織をつくる時、布を白くするために水洗いをしたり日光にあてたりする工程がありますが、その工程のことを「さらす」と言います。ほら、今まさに多摩川である美しい布を水でさらしていますが、私にはあの娘も同じくらい可愛らしく見えます。

( ) ( )

なんであの子ってこんな愛くるしいの？多摩川で洗ったタオルってめっちゃ触り心地良くて、洗えば洗うほど好きになるよね？あれみたくに見れば見るほど、どんどん愛おしく思ってしまうな。

( ) ( )

多摩川で洗って乾かした触り心地がいいタオルのように、どんどんあの子を愛おしく思うのはなんでだろう。

( ) ( )

あなたが織ってさらしてくれた布を見るとさらにあなたのことが愛おしくなるのはなんでだろう  
何事にも一生懸命なあなたの姿がまぶたにうかぶんだ

( ) ( )

あ的女性正味松島ぐらい美しいはしらんけど

( ) ( )

娘達が多摩川で布をさらしている。その中に自分が恋心を抱いている娘がいた

多摩川の水にさらし、日にもさらした真っ白な布のように美しいあの娘がさらさらに愛おしくてたまらない

( ) ( )

多摩川に乾してある手作りの布が風に吹かれているようなこの子供はなぜこんなにも可愛らしいのか

( ) ( )

・掛詞 この歌では「さらす」「こい言葉」「はびさらした」という言葉で、「さら」という部分が発音・表記が共通している。今でいうダジャレのよつなものである。  
・白川可愛い という作者の考え （註）

多摩川に布を洗っていくこの娘がこんなにも愛らしいのなーぜなーぜ？

”さらさら“とした雪が彼女の服について彼女が白く染まるのと同じように、”さらさら“にさらさら”あの娘が可愛く、好きになっ  
ていくな。

使う度に手洗いする娘の肌着。流水でさらさらと洗っているとさらに娘のことが愛おしくなる。

防人歌

### 父母が頭かき撫で幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる

父母が頭をなでて、無事であるように、と言った言葉が忘れられない。

お父さんとお母さんが、僕が危険な防人の務めで故郷の静岡から北九州に行くときに、無事を祈るおまじないで頭を撫でて「無  
事でいてね」と言ってくれた言葉が忘れられないな。二人のいる暖かい家庭に早く戻りたい。

社畜の俺に、頭撫でながら言った両親の言葉が忘れられない。

こん前福岡行って、冬なのになんかウチ半袖でさくまぢ死ぬくw、てかなんか知らんけどお、パピーとマミーがく、ウチのス  
マホにポケベル的な感じなので「5ー0ー0」とか送って来てえ、まぢ何言ってるのかわかんなくて草あく。あとく、ポケベルとかま  
じ古すぎてわるたwまぢずつと頭ん中残っててウケるwwがち死ぬんだがwwwどうしてくれんのwww

ママとパパがうちの別れを寂しがって頭をなでてくれたのをママとパパからの久しぶりにきたラインをみてふと思いだした。

社会人になった今、久々の両親を見て私が家を出る時かけてくれた「無事を祈る」お祈りの言葉を思い出した。  
今はもう遠く離れて暮らしているけど、両親がいた暖かい家庭にまた戻りたいと思うばかりだ。



お父さん、お母さん。防人としてこっちへ行くとき頭をなでながら二人が言った言葉を私は今でも忘れられない。  
「私たちの心配はいいから無事にまた帰ってきてね」。そんなこと言われてもやっぱり今も心配だ。早く帰って家族みんなで九州の言葉じゃなくて、関東の言葉で話したい。

おかんとおやじが頭をなでたのが正味いっちゃん忘れられんは

九州を守れって言われてきたけど hometown 離れてさみしいだけなんだけど、最後に撫でてくれたパパママの言葉フラッシュバックし続けるから早く帰りたいなあ。

父さんと母さんに見守られて家を出た。「防人として働け」と命令されたからには、絶対行かないといけなかった。だが、途中で死んでしまうかもしれない。そうになると、二人に迷惑かけたまままだ、俺はなんて親不孝者なんだ！絶対に生きて帰ってやる。仕事が終わる日まで父さんと母さんの優しい言葉と思いを胸に、頑張るんだ。

今日から九州に出張に行く。もう子供じゃないんだ。それなのに、父さんと母さんは俺のことを心配しすぎだ。無事でいるなんて言われてもな... まあ、知らないところに一人で突っ込むんだ気を抜いてはいかん。

二十歳になり、防人として九州を防衛しているが、出発する前に両親に頭を撫でられながら「体に気をつけてね」と言われた事を今でもよく思い出す。

防人として北九州に来る前、お父さんとお母さんがよしよししてくれて、からだ気をつけてと送り出してくれたんだ。今でも忘れなくて思い出しちゃうよ。ああ、早く帰りたいな。

「元気でね」搭乗口で別れ際に聞いたばかりの母の言葉。座席に着いて機内モードに切り替える寸前、同じ言葉がラインに点<sup>とも</sup>って笑ったことが忘れられない。

## 新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事

新しい年の初めの、正月の今日降る雪のように、もっと積もれ、よいことよ。  
あけおめーめちや雪だねえ、まぢもつとふれw

あけましておめでとう！ 今年も元旦から雪が降ってるよ。 とっても綺麗だな。今年も何事もなく平和な毎日が遅れますように

初春。今日から新しい年がスタートする。そんな日にきれいな雪が積もった！真つ白な雪が目の前で降って流石に綺麗すぎるから今年はこの雪みたいに美しい年になるといいな。あと、いいことも積み重なっていくといいな。

新年を迎えたね。昔から新年に雪が降るのは豊作の徴とされていてとてもいいこととされていたんだよ。今年の一年はそんなくらいいいことがたくさん起きるといいな。

みんな、あけおめ！ いやーまさか元旦が立春とかさるとは思わなかったね。マジでラッキーすぎっしょ！

しかも元旦に降る雪だよ。豊作が盛んになりますね。草生える的な笑 降ってる雪みたいに良いことが増えますよーに！えっ！待って・・・じゃあ・・・お年玉増えるくね？

「やばいよやばいよ！」なんつって笑  
新年早々、ラッキーすぎ！笑初詣行って、おみくじしてみるか。大吉、君に決めた!! (松下 心優)

新年に雪が降るのは豊作の徴として、当時大変縁起が良いとされていました。  
( )

大伴家持

(訳人知らず)

倒置法とは、普通とは言葉の並びをあえて逆にして、印象を強める表現技法です。

この歌の「いや重け吉言」は普通という言葉の並びでいえば、「吉言 いや重け」となります。しかし、倒置法を用いて「いや重け吉言」とすることで、作者がこの部分に願いを強く込めていることが分かります。

『万葉集』の最後におかれています。単に、良年祈願の歌であるというだけでなく、「和歌が栄え、世の中が栄えますように」といった編集者の意図を感じます。

その大伴家持はこの和歌を生涯最後の歌としたという

正月のカーテンを開けると外では雪が降っている。今年が良いことが雪のようにたくさん積もりますように。( )  
今日は雪がたくさん積もってるなー。もう新しい年が始まったしそろそろ春かー。雪は昔からいいことがおこる前ぶれっていうから今日積もってる雪のように楽しいこともたくさん降り積もれー( )

Happy New Year!! 新しい一年が始まった。今日は気温が低くてホワイトクリスマスならぬホワイトお正月だ。

新年一発目に雪が降るのは貴重だから今年はいいい年になる気がする。今日積もった雪のようにどんどんいいことが積もる一年でありますよーに!( )

沢山雪が積もっていて新年のいいスタートだ。この調子だと今年も豊作かな。

そして、豊作以外にもいいことが沢山起こりますように。

沢山雪が積もっていて幸先いいね! この調子だと今年も豊作になりそう。

豊作以外にも、いいことが沢山起こるハッピーな一年になるといいな。

ハッピーニューイヤー!

はよ雪が降らんのけ正月の今日ふる雪のように しらんけど ( )

新しい年の立春の今日、お正月で華やかなこの街にたくさんさんの真っ白な雪が積もっている今年も豊作になりそうだね。この積もった雪みたいにな、今年もラッキーなことがたくさんあってほしいな。( )

新しい年が始まった。正月の今日、降っている雪のように、もっと降れば、いいことあるかも。( )

HAPPY NEW YEAR!! 年のはじめから雪が積もっている!

今年が良い年になるのかなあ 良いことがたくさんありますようにー ( )

新年あけましておめでとう 今年も新年の日と立春がかぶってめでたいらしいね

雪も降って豊作になりそう

この国の幸福、この調子でより一層降り積もれ ( )





やかんもち



#あけおめ～  
#雪降りすぎwww  
#お年玉増えてくれ!!  
#春も来た～www

雪と一緒に春も来るのは草な  
んだがww  
雪が積もっていくみたいに、  
お年玉も積もってほしい！



## コラム

～雪は豊作のしるし～

冬に雪が多く降ると、その年は**雪解け水**によって水田の水が涸れることもなく、**豊作**になると言われていた！

～掛詞～

「吉事（よごと）」が「**夜毎**」と「**吉事**」で掛詞になっている！

～表現技法～

いやしけ吉事→**倒置法**になっている＝一番伝えたい

「**序言葉**」特定の語の前に、意味、または発音の上で関係する言葉をおいて、比喩や掛詞などを作る技法

→新しき年の初めの初春の今日降る雪の **いやしけ吉事**

～大伴家持のこの後～

この歌は万葉集の最後の歌であるとともに**大伴家持が書いた最後の歌**とされている。これを詠んだとき家持は42歳。この後も家持は26年も生き続けたが、その間歌は一句も詠まず、「**歌わぬ人家持**」と呼ばれていた。

最後の句は「今年もいいことがおきますように」という**ポジティブ**な句になっている。

# 古今和歌集

紀貫之

☐ 人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香ににほひける

人の心は、さあ、どう変わってしまったかわかりませんが、昔なじみのなつかしい土地では、花が昔のままに香っていることですよ。(春歌上)

あなたも本当のことを話しているか定かではありせんけどね。

この梅の花と違って人の心はすぐに変わってしまうものだからね。

人の心は変わっていくものだが俺には分からないがしかし梅の花は、昔と同じような香りがのこっていてガキだった自分を思い出す。自分も大人になったんだな。

人の心は移り変わるものであなたの心がどう変化したのか、俺にはわからない。

けれどこの場所は変化することなく昔と同じように梅の香りで満ちている

人の心は変わりやすく何を思っているのかも分かりません。しかし、昔なじみのこの場所で梅の花はかつてと同じかおりをただよわせて咲いています。

昇進してから長年行ってなかった知り合いのホテルにいくと、「当館は相変わらずなんですよ」と軽く嫌味を言われたので「あなたのように人はどう考えが変わるかは知りませんが、ここの梅の花は昔のように香って私を迎えてくれますよ。」と返してやったよ。

他ゲーをやっつて、しばらくやってなかったネットゲを開いたらフレンドから「あんたと違ってこっちはいつも通りだぜ」とチャットを送ってきたので「このBGMは相変わらず俺を向かえてくれてるけどな」返してやったわ。

人の心はどう変わってしまうのか分からぬ。しかし故郷に咲く梅の花は昔と変わらぬまま美しく咲いているものだ

帰れば変わらぬ梅の匂いが漂っている。

うち読心術とか持っていないし興味ないから人の心とかまぢ知らんけどお地元帰るとなんも変わらん梅出迎えるな？ww安心超えてがちテン上げなんだけどwwちよおうけるww  
てか、梅のビジュ良すぎて無理死ぬwwめっかわすぎてwこれバズるんじゃねwwww

人の心ってどうチェンジして変わるかは知らないし分からないんです。どう変わらんか分からないってことは変わるってことなんです。でも、ふるさとに咲く梅の花の匂いというか香りというかは変わらないんですね。

久々に来たなあ。宿の人は私の心が変わったと言うけど、あなたの心が変わったのかもよ、知らんけど。人の心はコロコロ、コロコロって。どう変わるか分からない。梅の花の香りはずっと変わらないのにな。

久しぶりに昔馴染みの場所に帰ってきたなあ。

人の心の中は、時間がたつにつれて、変化していくよなあ。

だけど、いま香る梅の花の匂いは昔と変わらんなあ。ああ、ひさしぶりだなあ。

( ) ( )



Twitter @kinotsurayuki

5時間前

え？ なんか久々に旅館にいったら、ディスプレイされたんだけど？  
あなたの心の中もかわったんじゃない？  
あなたの心と違って梅の花はいいにおいだけどね...w

93

64

665



久しぶりに私の故郷に帰ってきた。

私の心も、あなたの心も、そして世間も、変わっていく。あなたもどんなふうに変わってしまったか、分からない。ただ、ここには昔と変わらぬ、梅の香りが漂っている。

久しぶりにここに来たなあ。みんな変わっちゃまってよ。何考えてるかさっぱりだ。だけどよ、この梅のおいだけは変わってねえなあ。

本当に楽しみにして待ってくれてた？

梅の花は前と同じように咲いてるみたいだけど、人の心なんてすぐ変わるし本心なんてわかんないじゃん？

実家の内装は帰るたびに変わってるけど、母の味は変わらないなあ。

昔大好きだったあの子の思いは変わっちゃったのかもしれないけど、いつもの駅はあの頃と変わらずに電車が来つづけてるんだよな。エモすぎ。

久しぶりだね (◡‿◡) (´▽`)

ボクは楽しみにしていたけど、ボクと会うの楽しみにしてくれたカナ？ (⊙)

人の (◡‿◡) 気持ちは変わりやすいから困っちゃうナ (⊙)

いい香りの梅の花 (🌸) みたいに変わらないといいけどナ  
なんちゃって (☺) (☺) (☺)

ほんとに待ってくれてた……？

その花は私が前回来た時と変わってないみたいだけど、……  
あなたの気持ちは変わってないとはわかんないよね……？

えめっちゃ久しぶりだね!?

最近宿に来てくれなかったけど私の宿がそんなに不満なんだ?へーそうやって私を置いて他の宿に行くんだ。私なんか置いて行かれる存在なんだ。宿に一切通わず、毎日サンロイヤルホテルに行けばいいんじゃない?それが望みなんでしょう?そのうち宿に誰もこなくなつて、なにもすることがなくなつて、笑いものにされて、お友達もいなくなつて、人を信じることができなくなつて、対人恐怖症にもなつて、花の香と友達になつて、最期には孤独死すればいいんだ。

人の心はどう変わつてしまふかは分からない。けれど懐かしい場所では梅の花が花を咲かせている。そして懐かしいころと変わらない香りをさせている。

そっかあ…。あなたはそう思うんですね。いや、まあ、いいですけど私のことなんか忘れますよね(笑)

梅の花だけが私の見方ですよ、はい

久しぶりに古くから慣れ親しんだ場所に来たなあ…。楽しみに来たのに、宿の主人は皮肉を言うではないか。あなたの方はどうだったんです?私のことをちゃんと覚えていたかどうか。人の心はどう変わつてしまふのかわからないが、梅の花は昔ながらの場所で昔と同じ香りをさせて花を咲かせているけどね。

お互い社会人になると、こうして集まっても昔みたいにはバカ騒ぎはできないけど、校舎は変わらんねえ。

## 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

藤原敏行

秋が来たよ、目にははつきりと見えるのではないが、風の音に、はっとして気づかされたことであるよ。(秋歌上)

もう秋が来たらしい。

まだ暑さの残る日だ。目には、夏の景色が見えていて、秋が来たということは見えていない。けれど、冷たい風が吹いてきてもう秋が来たと感じて驚いた。

君を待つて恋しく思っていると、我が家の簾を動かして、秋の風が音を立てているよ。君が来たわけでは無かったのと、秋の風の冷たさで、私の心は失望感でいっぱいになってしまったよ。

ねえ聞いてえ？ウチって天智クンのこと大好きじゃん？でえ、こないだなんだけどお、「天智クンちよおカツコイ」とか考えながら家で待つてたわけ。そしたら急に簾動いたんよ。で、ウチは「天智クン来た！」ってテンション爆上げでそっちみたのね？そしたら誰もいなくてえー！！「はあ？」て思つてたらめっちゃ急に寒くなってえ！後から気づいたんだけど、簾動かしたの秋の風だったっばいんだよねえ…。天智クン来ないし秋の風冷たいしでもおさいあくだったあー！！

秋がどうやら来たようだ。「来た」といっても、実際に秋を目で見たわけではない。

まだ夏を満喫していた私に心地よい風が吹いた。それまで蒸し暑かった空気が一瞬風と混じつて爽やかになった。

風が過ぎて秋を感じた。

散策してたら結構強い風吹いてきて草



藤原敏行@能書家【依頼はdmまで】

散策してたら  
結構強い風吹いてきて草  
季節って目には見えへんけど自然のASMRは秋を感じられてええな



👍 いいね!    💬 コメントする    ➡ シェア

季節って目には見えへんけど  
自然の ASMR は秋を感じられてええな

もう、夏が終わって、秋が来るのかな

まだ、夏の暑さが残って、到底、秋の気配を感じないし、目にはっきりと見えるような秋のものはないけれど・・・  
でも、風の音ではっと気づかされることもある。

夏とは違う、秋らしさ。もうすぐ秋が到来することだね。

秋の訪れは目に見えないけどね、夏とは違う変化がたくさんあるよ！

よく耳をすますと、風の音に気付くはず。他にもねー 秋刀魚のにおいて、秋の訪れを感じるよなあ。

秋はさ、五感を楽しむことができているね！秋っていいよね。

秋が来たようですね。

目でははっきりと秋だとは分かりませんが、立秋を知らせるさわやかな秋風に、はっと気づかされましたよ。

え、待って、絶対この風の音、秋来たやん。

秋来た！って目に見えるわけじゃないけど、季節が変わったらハッて気づくよね。涼しくなった風とか、葉が紅葉してきて山が  
緑色から赤色に変わっていくところとか！

で、またいつの間にか冬が来るんでしょ？マジ、時の流れって早いわ！

ぼーっと歩いていたら、いつもとは違う風が僕の体を包み込んでくれた。風の音が強い。秋という季節は曖昧やからなく。でも、この風は夏とは違う気がする。その風が、ふらふらしていた僕を、秋の世界に迎えてくれたんだ。気付けば、風の勢いで神宮  
球場の歓声が聞こえてきた！

秋だとは思わなかったけど秋が来たらしいですね。暑くも、寒くも、よく分からず、家をでたときには半袖だったのに、今では長袖です。学校に来る並木道、銀杏の葉が色づいて、風の音と一緒に舞う葉。手には一枚の銀杏の葉。 ( ) ( )

母親のしわ、しみの数は目に見えて分かるものではないが、日々増えていく美容器具や化粧品の数を見れば、おおよそ検討がつくものだ。 ( ) ( )

あの人のことを

考えながら寝たからなのか、

あなたが夢に、

出てきてくれた。

あれが夢だって

分かってたら、

ずっと、

あの夢を

見てたのに……。

あいつのことを考えてたらさ、

寝落ちして

そしたら

夢にあいつがでてきて

ビビったw

起きた後夢って気づいて

覚めたなんでもったいなー

ってかんじw

コンビニの前出し商品はまだ冷感グッズばかりだったのに、店を出た瞬間、吹いた風に木の葉が舞っていた。 ( ) ( )

小野小町

### ☐ 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを

恋しく思い続けながら寝たので、あの方が現れたのでしょうか。夢とわかっていたら、覚めないでいたでしょう。(恋歌二)

あなたのことを考えながら 眠りについたからかしら あなたが夢に現れたの

夢と分かっていたら 夢から覚めなかったのに

( ) ( )

夢にあの方が現れたのは、私が恋しく思いながら眠りについたからなのでしょいか。  
夢だと分かっていたら、覚めることはなかったのに。

ねー聞いてよ！なんかさ、寝る前に妄想ばっかしてたら夢に好きぴ出てきて、  
でもめっちゃいいとこで目覚めちゃってふっーに萎えたわ。。。

昨日さあゝ好きな人のこと考えながら寝たら、夢に出てきちゃった！

夢だって分かってたらずーつと寝てたのになあゝ ホントに、なんで起きたんだろ…

明日こそ話せるかなーって思いながら寝たら、夢で会えたー！！

夢って分かってたら起きなかつたのにー。てか、あの人今日学校来てないやん…

好きな人のこと考えながら寝たら夢にでてきちゃった。なんで現実じゃなくて夢なの…

夢だって分かっていたら起きなかつたのになあ…

会いたいなあって思ってた夢に出てきてくれたの。

夢の中ではすっごい幸せだった。夢だって分かってたら一生寝てたのに。

あなたのことを恋しいと思いつつ寝たら、あなたが夢の中に出て来てしまった。夢の中で、「これは夢なんだ！」とわかったら、夢が覚めないように、眠り続けていたのに。そしたらずつとあなたと会っていられた。夢でもいいからあなたに会っていたかった。だって、現実のあなたは私に会いに来てはくれない。

昔から憧れているあの人が寝ているときに夢にでてきた。私はそれだけあの人の事を考えているのだろうか。でも憧れている人を前にしたら話せなくなつて結局また憧れて終わりだった。夢だとわかっていたら失敗など恐れずにあの人と話すことができたのとまた後悔する。





恋しい人のことを思ってた寝たら、あの人の夢を見てしまった。夢だと分かっていたならば覚めなかったのに。( )

夢にもう会えない君が出てきた。今まで見ていた世界が悪夢だったような気がして、その話を君にしたら君は「ごめんね」と言  
って、そこで目が覚めた。やっぱりこの世界は悪夢じゃなくて現実だったらしい。

君に何も言わずにいればよかったのかな。夢の世界だったとしても、僕は君がいればそれでよかったのに。( )

好きぴのことずっと考えてたら夢に出てきちゃったんだけど(笑)

夢だって分かってたら一生寝てたのに…マジ悔しい。( )

## 新古今和歌集

西行法師

### 道の辺に清水流るる柳かげしばしとてこそ立ちどまりつれ

道のほとりに清水が流れている、柳の木陰よ。ほんのしばらくと思つて、立ち止まったのであったが。(夏歌)

(夏歌)

歩いていると、きれいな水が流れ出ている柳の陰があった。

少しそこで休もうかなくて思つたら、あまりにも涼しくて心地よかつたから、  
寝居しちやつたな—

散歩するには日差しが強すぎます。柳の木の陰で少し休みましょう。

道端にこんなに大きい柳があるとは…あそこの川も水が澄んでいいですね。  
もうなんだか、動きたくなくなつてしまいました—

あつついな— 日陰で休もう—



河川敷ってええなあ

やべー 動きたくなくなってきたー

西行法師

崇徳上皇の霊を慕って讃岐へ行脚したさすらいの歌人。鳥羽上皇にも仕えた北面の武士。武術だけでなく和歌にも長けていた二十三歳の時に妻子を捨てて出家。「円位」と名のり、後に「西行」と称す。

藤原定家

### 見わたせば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮

見渡すと花も紅葉もないことだ。海辺の苫屋の辺りの秋の夕暮れよ。(秋歌上)

見渡したら花もないし紅葉もない。海辺の苫屋の辺りの夕暮れはきれいだなあ・・・

黄昏時。見わたせば、美しいと言われるものは、何一つない。

しかし、あの海沿いの漁師小屋を見てほしい。時間がたつほど、価値が大きくなっていくだろう。

スマホで紅葉を見るよりも ぼろい海の小屋見たほうが 日本らしくて泣けてくるわ。

最近の流行は綺麗で見事な花や紅葉だが、この海辺はボロ屋ねしかない。

秋の大きな太陽が水平線に沈んでいるよ。この素朴さが美しいなあ、

太陽が水平線に沈みそうなころ海辺を歩いた。

最近紅葉や桜がきれいと言われているが、見渡してもこの辺りには紅葉どころか花すらもない。

あるのは少し古臭い小屋と夕暮れだけだ。

周りに美しいものがない分秋の夕暮れがとても美しく見える。

せっかく見に来たのに想像してた紅葉も花もないじゃん。浜に漁師のボロ小屋だけか・・・ハア

はあ・・・。

周りを見わたしても

目に留まるような花とか紅葉とかないな。

いくら美しくてもいつか絶えるものなんだな。

忙しい秋だから、あの浜辺の近くの古い家みたいにしんみりと過ごしたいものだ。

〔鹿児島弁〕

はあ・・・。

周りを見わたしてん

目に留まっような花とか紅葉とかなかね。

どしこ美しゆうてもいつか絶ゆつもなんじやな。

忙しか秋じやっで、あん浜辺ん近くの古か家んごつしんみりと過ごそごたつもんじや。

〔ふなっしー〕

はあ・・・なっしー♪

周りを見わたしても

目に留まるような花とか紅葉とかないなっしなー♪

いくら美しくてもいつか絶えるものなっしなー♪

忙しい秋だから、あの浜辺の近くの古い家みたいにしんみりと過ごしたいものなっしー♪

〔大阪弁〕

はあ・・・。

周りを見わたしても

目に留まるような花やら紅葉やらあれへんな。

なんぼ美しゆうてもいつか絶えるものなんやな。

せわしない秋やさかい、あの浜辺の近くの古い家みたいにしんみりと過ごしたいもんや。

(四部作

)

見わたせば花も紅葉もなかりけり  
浦の苫屋の秋の夕暮

藤原定家

☐ 玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする

命よ、絶えるならば絶えてしまえ。生きながらえていると、秘めている力が弱ってしまうかもしれないから。(恋歌一)

私の命、無くなるなら早く無くなれ、神に仕える身なのに、恋愛に発展してしまった…

この恋心を抑えることができなくなってしまいそうで苦しい。

命さん。きついなら、やめてしまおう。長く生きていると皆に弱まっていると気づかれてしまうから。

ああもう！何であの人に恋をしてはいけないの！生きれば生きるほどあなたのことが好きで好きでたまらないのよ！

こんなことなら自分で命を絶ってしまいたい！もうこれ以上貴方への好意を耐え忍ぶことなんてできない…

こんな命絶えてしまえばいいのに！私は貴方と一緒にすることはできないけれど…

これ以上生きていれば貴方への恋心を隠すことができなくなってしまふ

ヤバイ、恋した。

でも私神職で親が反対してくる。絶対にばれたくない、てかばれたら死ぬ。はあ…まちむり…

私の命なんか早く終わってしまえばいいのに。この恋が実ることなんかないのに。

あの人に私の想いを伝えたくなくなってしまふんだもん…

もういっそ、俺の命など絶えるんだつたら絶えちゃえ！！

これ以上生きてたら、あいつへの思いが堪えきれなくてバレそうなんだよ！！

もういっそ死んでしまいたい！！もうこの思いがはち切れそうだ！

貴方への想いを断つことができないうのなら、私の命なんてさっさと絶えてしまえ。

いくら愛しても、神様に仕えた身では貴方が好きだと言えない。

このまま生き永らえては、もう貴方を想う気持ちを耐えられない。

迷惑をかけるぐらいならいっそ、本当に「死んでしまいたい」

この恋心抱き続けるだけならどうか忘れさせてくれたらいいのに。

ずっとずっと我慢しててもいつか耐え切れなくなって、この好きって気持ちがどこかで爆発しちゃうかもだから。

もう無理!!好きすぎる、やばい...この思いを隠すなんて無理ゲーじゃん!!

あーもう、なくなっちゃえ、魂ごと全部さ、

私の身体と魂を結んでつなぐ系。命の糸が切れるというならば構わない。今切れてしまえばいいのだ、!

私は一生独身の運命と決められているのに年上のあの人と秘密の恋をしてしまった

恋心を抑えないといけないけど生きれば生きるほどその意思が弱くなってばれてしまう。好きな人と結ばれないよ  
り死んだほうがましなのに...、

ああ命よ! 胸が張り裂ける! 私はどうすればいいんだ! おもいを伝えたいけど...

怖いなーでもこのままじゃ... (もじもじ) でもやっぱり怖いな... (もじもじ) 彼と私は釣り合わないからー

ああ私よ! こんな自分にも嫌気がさすわ! 困ったもんだ...

恋を隠すのってとっても難しくってつらい... 神に仕えた身だからこの想いは伝えられない

ならいっそ私の魂も消えてしまえばいいのに

我慢して隠つづける気持ちが弱ってに周りにばれちゃったら大変なことになってしまうから...



三十路の式子 @Naishinnou

5時間前

ヤバい、恋した

でも私神職で親が反対してくる

絶対にばれたくないてかばれたら死ぬ

はあ...まぢむり、

620

1万

2万



## 〈この恋は成立している？〉

〈こんな説もある！〉

正月にはじめて藤原定家が式子内親王を訪れて以降、折にふれ内親王の元へ通っているため、定家と内親王が秘かな恋愛関係にあったとする説

- ・ 師である藤原俊成のその息子である定家

これらの資料から両想いであったのではと考えられる

定家も百人一首で詠んでいる！

「来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに  
焼くや藻塩の身も焦がれつつ」

の来ない人とは、  
後鳥羽院、順徳院、式子内親王のこと  
(鎌倉前期の天皇) (後鳥羽上皇第3皇子)

(平安末期・鎌倉前期  
女流歌人後白河天皇の第3皇女)



## Q.ならばなぜ忍ぶ恋だったのか？

- ・ 式子内親王は生涯独身でいなければならぬ身分であったから  
(加茂神社の斎院)



玉の綱よ  
絶えなば絶えぬ  
なげらば  
忍ぶことの  
密りもぞする

こんな命絶えてしまえばいいのに！  
私は貴方と一緒にいることはできないけれど.....  
これ以上生きていれば貴方への恋心を隠すことができなくなってしまふ

「こそ」「ぞ」の係り結びは意味を強めるだけで普通は現代語訳に反映しない！



「こそ」「ぞ」の係り結びの前に「も」がつく



「...すると大変」「...すると困る」という意味が付け加わる

式子内親王の和歌の意味

「(しのぶ恋心を) 隠し続ける気持ちが弱ってしまうと大変だから…」という意味になる！

「も」が付くと、  
悪い結果を想像し、そうなっては困るという気持ちを表現するということ！



夜もすがら 物思ふころは 明けやらで 闇ねやの隙ひまさえ つれなかりけり

夜通し物思いにくれているこのごろはなかなか夜が明けず、寝屋のすき間までつれなく感じられることだ。

最近、寝ずに毎晩つれない彼女のことを考えてる。

なかなか夜が明けられないから、彼女だけじゃなく部屋の隙間さえも冷たく感じちゃうんだ。

俊恵法師



コラム 主な枕詞一覧

枕詞

茜さす (あかねさす)  
 足引きの (あしひきの)  
 新玉の (あらたまの)  
 青丹よし (あをによし)  
 空蟬の (うつせみの)  
 唐衣 (からころも)  
 草枕 (くさまくら)  
 白妙の (しろたへの)  
 垂乳根の (たらちねの)  
 千早振る (ちはやぶる)  
 久方の (ひさかたの)

かかる語

日・昼・紫・君  
 山・峰  
 年・月・日  
 奈良  
 命・世・人・命  
 着る・裁つ・裾  
 旅・夕(ゆふ)  
 衣・袖・雲・雪  
 母・親  
 神・宇治  
 天・雨・空・光

( )

## ④ 令和訳をした感想

- シンプルに和歌の意味だけをとらえると、雰囲気だけしかつかめなかったけれども、令和訳をしてみて気づいていなかった意味に気づくことができ、想像していた情景に色がついた感じがしてもっと詳しい解釈ができた気がする。
- 昔のひとが思っていたことは現代でもよくあることだったことに気づいた。和歌は難しいという偏見をなくすことが出来たため、自分にとってとてもためになった学習だった。
- 「はるか昔に作られた」和歌という作品を、今現在の令和訳にするということは難しかったが、楽しくもあった。またこのような昔と今をつなげる経験をしてみたい。
- 思っているよりも令和訳が難しかったです。ですが、みんなの令和訳は共感することが多く、読むのが楽しかったです。
- 令和訳をするのは、すごく難しいんじゃないかなと思っていましたが、昔の和歌は思っていたよりも今と共通する部分が多く、令和訳をしてみると、共感する部分がたくさんあってすごくおもしろかったです！
- ただ現代語訳をするのではなく、独特の表現や文法に気を付けながら自分の言葉で訳していくことに楽しさを感じた。
- 私は令和訳してみても昔の人も現代の人も考えていることは似ているんだなと感じた。私もω一字の中で昔の人みたいに表現豊かに和歌を詠んでみたい。
- 令和訳で状況とともに令和の言葉で書かなければいけないのがおもしろかったです。友達と協力してでき良かったです
- 自分たちの言葉で訳してみるによって、わかりやすさが全然違った。他の人も読んだら、ほかの和歌も分かりやすく意味がとれた。
- 和歌の壮大な感性を令和訳するのは大変で難しかったが、令和といえればについて考え、自分なりに分析して令和訳をすることができた。また、楽しかった。
- たった三十一字の文だがそれは筆者の思いを詰めに詰めたものなんだと知り、詩とは奥深いものだなと思った。
- 和歌に込められた思いや詠まれた背景なども理解していないと令和訳でくずした表現ができないので、思ったよりも令和訳は難しかったです。しかし、令和訳をするとその和歌が身近に感じ、和歌に親しむことができた。
- 捉えるべきポイントをしっかりと捉え、自分の中で分かりやすく変換することができ、和歌が身近に感じた。
- 一つ一つの単語の意味を調べたり、情景を思い浮かべたりすることによって和歌の作者の気持ちを感じることができた。
- 現代語訳と令和訳の違いが最初は分かりませんでした。実際にやってみて、すごく面白くて、表現豊かに訳することができました。
- 何をどう捉えるか、またそれをどう今っぽく令和訳するかが難しかった。難しかったが、ほかの人と協力したり、自分で調べたりして、納得いくものができた時はとても嬉しかったです、やりがいを感じた。
- 和歌の良さを生かしながら簡単な表現にするというのは、難しく、意外と時間がかかる作業だった。令和訳をすることでその和歌の情景についてより深く考えることができたので、和歌の言葉のもつ美しさ、というのを十分に感じられたと思う。

「本冊子をご覧になった鹿児島玉龍中三年生一同以外の皆さんへ」

ご覧いただき、ありがとうございます。令和訳に挑戦した経緯は前書きに書いてある通りです。そして令和訳をご覧いただき、通説的な訳とは違う部分、言葉のとらえ方が通説とは違うところにお気づきの方もいらっしゃると思います。明らかに誤読と思われるものはちよこちよこ指導したのですが、生徒一人一人がとらえた世界観に沿うものはあえてそのままにしてあります。むしろ、調べて出てきた訳に頼らず囚われず、和歌にのせられた先人達の思いを自分で解釈しよう、したい!と思う生徒が多いことに驚きました。杓子定規で正確な訳は諸資料に任せ、まずは和歌の世界に飛び込んで学び始めること、そして学び続けられる主体へと成長すること、それが本冊子の目的地であり、出発点です。

## 〔編集後記〕

「令和訳をします。ただ面白おかしく訳するのではなく、何をどのようにとらえるべきなのか？」が大事ですよ」  
和歌の授業の最初にこの言葉を投げかけたとき、皆さん「あー、うん。ハイ。わかりました(ん?どゆこと?)」という顔をしていました。が、覚えているでしょうか?そして今、実際に令和訳に挑戦し、互いの作品を見たあと、和歌を読むときには何をどうとらえるべきなのか?と問われたときに、それぞれに何かしらの考え、というか、方針、というか、もっと言えば、哲学めいたものが皆さんの頭の中に立ち現れていると思います(それをリフレクションシートに書きましようね)。

などと偉そうなことを書いていますが、こうして完成した冊子を見ると、皆さんのもっている感受性や語感、読解力、表現力の豊かさに圧倒されます。鹿児島玉龍中学校三年生一同は、全国の同じ中学三年生の中でも、最も和歌に親しんだ生徒達だと言っても過言ではないでしょう。和歌に限らず、様々な作品に触れ、表現し、ことばを通して豊かな人生を歩む二里塚の一つにこの冊子がなることを願って、「ポストする和歌」の最後の頁を綴じます。(さて、「二里塚」とは何でしょう?そしてなぜ「二里塚」という言葉を松元は用いたのでしょうか?)

※ 画像は「新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事」をAI生成しました。 <https://myedit.online/jp/photo-editor>

令和訳和歌集

「ポストする和歌」

2023年12月18日発行

著者：令和3年度入学鹿児島玉龍中学校3年生一同

イラスト：Rinrin

編者：鹿児島玉龍中学校国語科 松元智宏

発行所：鹿児島県鹿児島市池之上町20-57